

会 議 録				
平成24年度第8回 社会教育委員の会議	日 時	平成25年2月20日(水) 午前9時30分～午前11時30分	場 所	小金井市役所第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	本川議長、伊藤副議長 倉持、小林、佐野、田尻、樹、中村、本多、松田 各委員		
	その他 事務局	西田生涯学習部長、天野生涯学習課長、田中図書館長、大関公民館長 林生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 協議事項				
(1) 平成25年度小委員会について				
(2) 視察研修について				
(3) 第2次生涯学習推進計画の評価方法について				
(4) 出向委員の選任について				
(5) その他				
2. 報告事項				
(1) 小委員会について				
(2) 多摩郷土誌フェアについて				
(3) 野川駅伝について				
(4) スポーツ祭東京2013について				
(5) その他				
1. 協議事項				
(1)平成25年度小委員会について				
(本川議長)				
それでは、ただいまより平成24年度第8回社会教育委員の会議を始めさせていただきます。協議事項を先にさせていただきます。1番の平成25年度小委員会についてということで、伊藤副議長のほうからお願いします。				
(伊藤副議長)				
この協議事項について、報告事項の(1)と併せて私のほうからお話しさせていただきます。2月13日に小委員会を開催し、小委員会の委員構成と日程について話があった。9月までは現行のメンバーがいいのではないかとということであった。また日程については全5回のうち9月までの3回を4月、6月、7月の第2水曜日に開催したいと考えている。				
(本川議長)				
では、小委員会委員については引き続き現メンバーが担うということによいか。				

(「はい」との声あり)

(本川議長)

それでは、今のメンバーで9月まではさせていただくということでもよろしくお願ひする。

(伊藤副議長)

日程に関しては4月、6月、7月の第2水曜日に実施したいという意向であるがどうか。

(本川議長)

第3水曜日に社会教育委員の会議があるので、その前の第2水曜日と設定してある。では、特にご異議がなければ、4月、6月、7月の第2水曜日ということで進めさせていただきたいと思う。

(「はい」との声あり)

(本川議長)

ありがとう。では、そのようにしたいと思う。

## (2) 視察研修について

(本川議長)

続いて視察研修についてだが、4月から年度内に一度視察研修というのを組み込ませていただいている。前回は町田に伺わせていただいたが、どこか希望等はあるだろうか。

(伊藤副議長)

前々期で清里に行ったが前期は行ってないので、メンバーも入れ替わっているので、ここで一度行くのはどうか。

(本川議長)

24期のときに伺わせていただいた。小金井市においての大きな社会教育施設の1つなので、社会教育委員にはぜひ見ていただき、ご理解いただきたいと思っている。

(本多委員)

視察もそうだが、移動が長くてもバスの中での交流があるのはいいと思う。

(田尻委員)

6年生の子供たちが夏休み中に来るので、この施設でどのような活動をしているのかというところで、そういった視点で見ただけであれば大変うれしいと思っている。6年生と交流給食といって、数人の児童は校長室へ呼んで一緒に食べながら話したりするが、6年間で一番思い出に残っていることを尋ねると、殆んどが清里をあげる。やはり親元離れて初めて友達と宿泊を体験したとか、いろいろなところに行って今までにない経験ができたとか、そういったことで一番の思い出になっているので、ぜひ一度行っていただいて、こういうところで子供たちはすばらしい体験をしているんだということを見ていただけると大変うれしいと思う。

(本川議長)

ありがとう。それでは、特にほかになければ、一応、清里視察ということで決めさせていただけますでしょうか。

(「はい」との声あり)

(天野生涯学習課長)

日程であるが、施設を中心に見るのであれば、長期休業中等、一般の利用者がいらっしやる時期は避けたい。また、先ほど話もあったが、林間学校の様子を見学するのであれば、学校の了解を得る必要がある。

(本川議長)

わかった。田尻先生、児童がいるときに見学しても差し支えないか。

(田尻委員)

規模の大きい学校であるといっばいであるが、規模の小さい学校の場合であれば大丈夫かと思う。支配人のほうとも一応相談した方がいいと思うが。

(本川議長)

なかなか子供たちの活動を見る機会がないので、非常に有意義かと思う。

(天野生涯学習課長)

日程については、今日すぐに決めないといけないということではないと思うので、今日は場所について決めさせていただければと思う。

(本川議長)

場所は清里山荘を視察ということでよろしいか。

(「はい」との声あり)

(本川議長)

では、今後日程の調整等をしたいと思う。協議事項の3に移らせていただく。

### (3) 第2次生涯学習推進計画の評価方法について

(天野生涯学習課長)

今回は資料を2種類配付している。1点が、生涯学習推進計画に係るスケジュールと、もう1点が平成24年度(平成23年度実施分)小金井市生涯学習推進計画実施状況、こちらが両面で10ページまでついているものになる。区分と書いてあるところ、表のおおよそ真ん中あたりであるが、こちらが計画策定時の方向性を示したものである。一番右側、平成24年度方向性という欄は、現時点で各主管課が示している方向性を今回調査したというものになっている。22年度と23年度の比較というものがあるが、こちらは実績をもとに横ばいなのか、あるいは上向きまたは下向きなのかを矢印で示したものとなっている。単に実績を比較して、機械的に処理したものなので、これは方向性とは若干違ったものになっている。例えば主管課として推進していきたいということであっても、実際、参加者数が多少でも減であると下を向いたような形になる。

今回、協議事項としては、評価方法についてということであるが、こちら、実際に調査してみると、平成24年度の方角性についての欄であるが、例えば主管課によっては

23年度と比較して実際に参加者数が減っているからということで、実績をもとに回答している課と、実績にかかわらず、課としての取り組みの方向性として答えていただいている課と、この結果だけ見た限りでは少し混ざってしまっているのかと思っている。今回、時間的な関係で、その辺は集計するだけで、その後、集計結果について各課に調査するというところはできなかったのもので、その辺が、おそらく今は混ざっている状況になっているのかと、結果を見る限りでは事務局としては判断している。現行の計画は、計画の策定に当たって、ビジュアル的なものも意識してつくっていただいたと聞いており、確かに、矢印で方向性が示されたりというところは、見やすいのかと思っているが、実際にこういった調査をしてみると、実績の比較や評価というのが実際は難しいというのが改めて調査してみるとわかったところもあるので、こういったところを踏まえて、今後、第3次の計画策定に向けて、そういった評価についても検討しつつ、3次のところで評価しやすいような計画をつくるという材料にもしたいと考えている。

それで、もう1枚のスケジュールのほうであるが、この計画自体、もともと25年度までの計画になっており、この計画期間については前回の委員会で2年間延伸することです承いただいた。そうすると、平成27年度までということになり、次の計画が平成28年度からということになるので、平成27年度中に策定をしなければいけないということになっている。

そこからスケジュールを作成し、今後の方向性としては、もともとが平成25年度までの計画であったので、平成26年度中に平成25年度までの5か年の評価というのはしなければいけないのかと思っている。そういったことがあるので、そのために25年度中にこういった形で評価すればいいのかということで、評価方法についてこの会議において検討していただきたいというのが事務局としての考えである。

2年間延伸するわけであるが、その2年間の間に延伸期間中の最低限の見直しというのが必要なのかということもあわせて25年度中にご検討いただければと思っている。

次の計画に向けては、そこで評価方法等をご検討いただいたことも生かしつつ、平成26年度の前半にこういった方向でいくかという素案を作成していただき、具体案を後半で作成していただくというように考えている。

平成27年度に入ったら、計画策定についての業者との契約等を年度初めに行い、実際には7月以降にその策定に取りかかっていくことになるかと思っている。

今回の実施状況の調査であるが、現在は集計までしかできていないところであるので、これをもとに、今後、各課に方向性の実際のところの確認をし、最終的にまとめたものを庁内の部長職者で構成する生涯学習推進検討委員会というものがあるのでそこで検討し、その検討結果を教育長及び市長に報告するという形をとろうかと思っている。

資料の説明については以上である。

(本川議長)

ありがとう。小委員会でもこの件については少し話し合われている。なので、協議をする前に、少し検討したことについてお話をしていただきたいと思う。

(伊藤副議長)

先週、12日の小委員会で、この件についても話し合いが行われた。小委員会の中では、実際に第2次計画をつくるに当たっては、具体的に計画の数値的な目標を設定したとか、あるいは、どういう形で評価していこうかという評価方法については想定していなかったもので、第三者が評価を行うことは実質的には不可能であると思う。第3次計画を策定するに当たって、第2次計画のそれを踏まえて、方向性というかご意見で進めてみたらどうだろうかということも話し合われた。まず、生まれてから死ぬまでが全て生涯学習であるのであるから、あらゆることが全部生涯学習に該当するわけであるが、もう少しミクロ的な考え方というか、我々が生涯学習計画を策定するのを考えるに当たって、計画の中に網羅する事項をもう少し絞って試みてはどうかと。今は市の部局の26部署のもの、ほとんどの事業が網羅されているわけであるが、あまり間口を広げてしまうと非常に広範、多岐にわたってますます評価もしにくくなるだろうし、方向性をつくるのも非常に難しくなるだろうと。ある程度、生涯学習の色合いが強い事業・部署に計画の範囲を特化してはどうだろうかという提案がなされ、一応、小委員会の方々はその方向がよいのではないかという話であった。非常に大量の項目があるので計画の内容も絞り込んでいくにしても、あれだけ膨大なものをパッと広げて、では、どうすると言っても難しいので、まずは現計画を見直し、計画に含める事業の範囲を検討したり、グルーピングができればいいと考えている。まずは計画書を読もうということである。

(本川議長)

推進計画をお持ちでは無い方いらっしゃるだろうか。お持ちでない方は事務局のほうに申し出ていただいて、ぜひ手に入れてごらんになってみていただきたい。現在200近い事業があり、非常に範囲が広がっているが、今伊藤副議長のほうからあった生涯学習をどこまでどういうふうに区切るかということもすごく難しいのであるが、そのことが一つ。それからもう一つは、類似している事業をまとめていってより効果的な事業となるようなことができればと思っている。27期の社会教育委員に細かいことを検討して頂けるように、方向付けをしっかりと出せればと思っている。生涯学習推進計画の評価法についてということでは、今後、追加しての調査があるということなので、それらを踏まえて取り組むと言うことでよろしいか。

(天野生涯学習課長)

今回で全ての結論がでるとは考えていない。ここで決めたいのは、生涯学習推進計画自体が部長職で構成する生涯学習推進検討委員会というところで決定する形になっている関係から、進捗状況についても毎年そちらで報告をしている。そのため、これをもとにしたものでそちらに報告するというところだけここでご了承いただければ、今回のところはいいのかと思っている。

(倉持委員)

もう1回スケジュールの確認を。25年度中にやるべきことは何なのか。

(天野生涯学習課長)

まず、今の計画自体が25年度までになるので、26年度、27年度というのが延伸するという形になるが、延伸期間中に、この計画のまま何もいじらずにそのままがいいのかということと、最低限、ここは事業を個々の事業名で、これはもう今ないから削除したほうがいいのではないかとか、あるいは、方向性が明らかに変わっているものを変えたほうがいいのではないかとか、そういった延伸期間中に何か見直しする必要があるのかということを検討したいと思っている。

(倉持委員)

この計画自体の評価についてはどのようにお考えか。

(天野生涯学習課長)

評価についてだが、最終的な評価は延伸しているので27年度中になるのかとは思ってはいるが、もともとの計画が25年度までであったので、このスケジュールにも記載があるが、今回と同様の調査を25年度分について進捗状況調査をする際に、あわせて5か年の主管課から見た評価というものも調査するように考えている。なので、そこに向けてどのような評価方法ができるのかということについては25年度中に検討したいと考えている。

(倉持委員)

25年度中に評価方法について検討して、26年度中に評価をするということか。

(天野生涯学習課長)

そうである。仮の評価という形になってしまうと思うが、延伸して、実際には27年度までになるので、そこで最終評価をすることになるかとは思いますが、25年度までの仮の評価という形で一度まとめておいたほうがいいのかと考えている。

(倉持委員)

実際に次期の計画を検討するのは、26年度に検討を始めると。

(天野生涯学習課長)

そうである。その評価の後になろうかと思う。

(倉持委員)

しかし、次の計画を立てるのに、前の計画の評価がある程度ないと次の計画は立てられないと考えると、26年度の仮の評価は、むしろ実質的な評価と考えていいのか。

(天野生涯学習課長)

そうである。

(倉持委員)

では、26年度中に次の期の計画の検討を始めて、同時に、検討素材として現行計画の一定の評価というのが、途中ではあるけれどもされるということだろうか。26年度がある意味で、これまでの計画の評価と次の計画の検討に入る年度になるということであり、そのための方法を25年度中に検討しておかなくてはいけない。

(天野生涯学習課長)

そのとおりである。

(倉持委員)

今日お示しいただいた実施状況は、23年度の事業に関する評価、単年度の評価ということになるわけであると。これは、毎年行われる評価ということか。

(天野生涯学習課長)

そうである。

(倉持委員)

展開見直結果のところの基準が少し曖昧なのではないかという話があるが、矢印に関しては、基本的には数値による、つまり、事業に対してたくさん人が来たか、前の年度と比べて増えたか、減ったか、あまり変わらないかということで矢印はつけられているのか。

(天野生涯学習課長)

今回の資料のほうはそうになっている。だから、計画にある矢印とはリンクしない形にはなってしまう。

(倉持委員)

確認したいのだが上から2番目の学童保育の充実についてという項目がそうではないようだが。

(事務局)

事務局である。その点は資料の誤りである。

(倉持委員)

これは数字が間違っているということか。

(事務局)

いや、私が矢印をつけるのを誤っているということである。

(倉持委員)

それから、私が着目したのは拡充と廃止なのだが、拡充が3つ増えているのだが、拡充になった3つというのは、何か特に理由があるのかということと、廃止という項目の部分は、どういう理由で廃止なのか、今わかる範囲で少し教えてもらえるのであればお願いしたい。

(天野生涯学習課長)

廃止のほかにも、新規というのがそうなのだが、今回、延伸期間中の見直しが必要かどうかを調査するに当たって設けた項目になる。廃止については、おそらく今回の場合はほとんどが内容自体が達成されたもの、例えば子どもの権利条例の制定というような項目があった場合、制定が済んでしまっているもので、今後制定することはないということで廃止になっているものとか、時限的な補助金を活用しての事業で、それがもうなくなってしまうことで廃止になったものとかがある。

(倉持委員)

行政用語なのかもしれないが、私たちの感覚からすると、廃止というと、もう要らなくなったという感じがするので、むしろ達成したとか、終了したと表現すべきではない

か。

(天野生涯学習課長)

そのように改める。

(倉持委員)

それから現行計画においては、この生涯学習推進計画の策定に当たっては、社会教育委員の会議で、枠組みを含めて検討したと思うのだが、それは新規計画においてもそういう進め方で行われるのか。

(天野生涯学習課長)

基本的にはそのようにお願いしたいと思っている。

(倉持委員)

その上で、先ほどの小委員会の議論で質問したいのだが、計画に載せる事業数そのものを絞り込むという方向で議論がまとまったということなのか。意味がよくわからなかったのだが。

(佐野委員)

簡単にいうと、そんなことである。事業数を絞り込むというか、生涯学習という非常に範囲の広い分野で、非常に多くの部署が関わっている。これらを少し減らせないかということである。また複数の部署で類似の事業も多く、それらを整理できないかということである。実際の事業の中身は私にもわからないが。

(倉持委員)

実際行っているものを一部分のみ生涯学習計画に載せて、一部分は載せなくしようという提案なのか。

(本川議長)

そういうことでもないのだが。今後、評価をするにあたって、推進計画自体がどのような内容に特化していくべきなのかという議論である。まず、最初に我々が計画を理解していなければならぬのだが、あまり膨大であってもわかりにくい、なので、もう少しわかりやすい形にできるかということである。

(倉持委員)

小金井市の生涯学習の基本となる計画を、どう立てるかということにかかわる大きな問題だと思うので、今後もしっかり議論をしたい。この間、幾つかの市のこういう計画にかかわってきて、やはり、この委員会の中できちんと議論をして目標を立てたりしないと、網羅的になってしまうことは否めない、例えば評価をするときに、全ての事業を評価することは難しいので、幾つか抽出するというか、例えば小金井市の計画には改めて見るとなかったのだが、重点事業のような、特に達成するに注目すべき事業というのを決めたりするのも一つの方法である。例えば子供の健全育成、少し、目標自体がややアバウト過ぎる目標なので、次期計画策定に向けた一つの検討材料にはなると思うのだが、目標の立て方をもう少し鮮明にしていって、その目標に特に見合う事業をピックアップして、その部分の評価をきちんとしていくようなやり方もあるのではないかと。生涯



学習はあらゆる方面から評価するのは難しいし、評価すべきでないという考え方もあると思うけれども、市の計画なので、やはり市として何に重点を置いて、何を達成していくかということで考えると、一つ指標になるのが目標なのではないかと思う。要る、要らないというよりは、見方によってはどれも生涯学習だと思っただけけれども、基本目標の、特に例えば関連、特に重点を置くべき事業はどれかを決めたりするのも方法である。小金井市の生涯学習計画は、あまり考え方について書かれていない。小金井市はこういう生涯学習を大事にするとか、こういう視点を大事にするというのが書かれていないので、次の計画では、そういうことを大事にしてもいいのではないかと思う。

(佐野委員)

よろしいか。私はプラン・ドゥー・シーのシーだと思う。プランで計画を立て、実行して、それをまた評価する形の評価の部分なのだけれども、要するに、26の課でもって、いろいろなことを実施されている。計画の中での類似事業等をもう少しお互いに共通する部分については、どうしていったらいいのかを話し合っていていただくことによって、やっている事業というものがもう少し重層的になってくるのではないかと思う。そのため一つの評価というのをやっていかないと、実際にどういう事業を行っているのかということ、私たち自身がつかんでいくことがすごく大事ではないか。

そのため一つの方法として、ここに、今日配っていただいた実施状況というものを精査していく、そういう作業が必要ではないか。そういうものを踏まえて、小金井しあわせプランというのがあるから、これが要するに市としての方向性を示しているものだと思う。だから、これに基づいているか整合性というか、それをいろいろ計画として練っていくことが今課せられた課題ではないかと思う。

(本川議長)

行政には行政の見方や立場があり、市民には市民の視点がある、これらをうまく橋渡しするのが社会教育委員の役割である。倉持先生はほんとうにそういう分野の専門家であるわけだから、ぜひ力を貸していただいて、現行の基本計画があと2年、そのために2年延伸するわけだから、ぜひ、いい形でたどり着くような方向性を探りたいと思う。ありがとう。

(天野生涯学習課長)

今の議論を聞き、今回の集計の仕方にも少し工夫が必要かと思うところがあった。例えば計画の16ページに基本目標からの施策の体系があるが、集計する際にこの基本目標ごとにまとめた形の集計をしたりする必要があるかと思う。それと、先ほど伊藤委員からお話があったところで、数値的な目標がないので、第三者から評価しにくいという話があったかと思う。その辺も、今回は実績ということで、例えば講座なんかだと、参加者数をもとに矢印が上向き下向きとやっているのだけれども、地域に参加するための講座などがあつたときに、参加者数でそれが評価できるのかということ、決してそうではないと思っていて、例えば参加した人の中からどれだけ地域で活動する人が増えたかとか、そういったところで本来はかるべきだという思いがある。そういったところで、こ

の事業に対してどういう数値目標をすれば正しく評価ができるのかを、この会議の中で今後はかっていただけると、第三次の中で生かせるのかと思っている。

(倉持委員)

他の自治体の教育委員会の事務事業評価にかかわっているのだけれども、事業数がこんなに膨大ではない、教育委員会の事業も結構あるのだが、担当の課の担当者の自己評価は、ある指標の一つにはしている。例えば事業の目的、目標を十分達成した、あるいは当初の目的をさらに超える成果があった、あるいはまあまあ達成した、一部達成できなかった、それは人数の場合もあるし、先ほどおっしゃったように生涯学習なので、たくさん来たからというのではなくて、例えば人数は少なかったけれども、たくさんボランティアになったとか、その後につながったとか、そういうのがある。数値ではかれない定性的評価というのは結構大事になってくるので、そういう人数以外の指標、自己評価を入れてもらうのを一つとし、例えば市民側にヒアリングというか、あるいは団体からのヒアリングとか、やはり小金井市の子供に関する学習活動はどうだろうかと思うような機会を設けるとか、毎年は無理だが、数字だけだとやはり難しいし、合わない部分もある。物を売るわけではないので、人なので、合わない部分もあるというところは、少し検討、これから話し合っていく余地はあるかと思う。

(本川議長)

その辺まで、今日の、評価方法というのは幾つか課題があったかと思うので、それをどういうふうに組み立てていくかということを経後の課題にするということで、よろしいか。

(佐野委員)

少し方向性が見えてきた。

(田尻委員)

一つ一つみているが、すごい数だ。この中には教育にかかわる指導室とか学務課とかあるのだが、ライフステージのところを見ても、ほんとうに幼少から高齢までバランスいいなと今見ていたのだけれども、実は、学校でも評価を行っている。評価をするからには、成果と課題を明確にしないと、次の年度の計画は立てられない。だから、そこは成果と課題がはっきり浮き彫りになるような形での評価方法を考えていくことが必要ではないかと思う。だから、評価方法をどういった形でやるかというところ、その前の段階としては、例えば学校でいうと教育目標に照らし合わせる、あるいは学校の方針に照らし合わせて、項目ごとに分ける。その項目ごとで、そこは何をねらいとしていたかを明確にして、例えばとてもよくできたとか、大体できたとか、あまりできなかったとか、全くできなかった、こういったところで評価をしていく。そうするとトータル的に明確な成果と課題が出てくるので、200事業というのはすごく多いので、なかなかそれをこちら側に当てはめることはできないのだけれども、そういった観点で評価方法を捉えていくといいかと思った。

(本川議長)

ありがとう。私もかかわっているところでは、自分で5、4、3、2、1のようなのがあって、今期は3を目指そうというようなところで、その3に対して今期到達度がどうだったかということ、2だったのか、4だったのかというやり方をして、それを自己評価としているようなところもあるので、方法については少し相談しながらさせていただければと思う。ありがとう。そのあたりでよろしいか。ありがとう。いろいろ勉強になる、ほんとうに。それでは（4）の出向委員の選任についてに移らせていただく。

#### （4）出向委員の選任について

（事務局）

事務局である。今回は平成25年度の放課後子どもプラン運営委員に出向する委員を選出して頂きたい。

（本川議長）

現在は樹委員か。

（事務局）

そうである。

（佐野委員）

4月から変わるのか。

（事務局）

現在の委員の任期は3月末日までである。

（本川議長）

いかがか。誰かやってみたいと思われる方、いらっしゃるか。樹委員、続けていただけるか。

（樹委員）

大丈夫である。

（本川議長）

皆様、ご異存がなければ続けてもう1年していただくことにしたいが。

（「異議なし」の声あり）

（本川議長）

それでは、そのように推薦をする。

#### （5）その他

（佐野委員）

済まない、質問してもいいか。しあわせプランの中に、市民協働のことが載っていた。準備センター。市長の施政方針の中にもこれを進めるというようなことが載っていたのだが、この進展具合がわかれば、少し教えていただきたい。

（西田生涯学習部長）

小金井市社会福祉協議会に 小金井ボランティア・市民活動センター、ボラセンと呼

んでいるところがあるのだが、それが実際にもう既に活動を始めている。それが多分第一歩になっていて、これからまた進めていくような形になる。所管が異なるので、不正確だが、コミュニティ文化課というところが所管していたと思う。

(佐野委員)

施政方針の中に、平成24年3月に市民協働のあり方等検討委員会から、市民協働及び仮称小金井市市民協働支援センターのあり方等についての答申が出され、それを受けて…」という言葉が出てくる。だから、これがどういうふうに進んでいるのかというところが少し知りたかったのだが。

(天野生涯学習課長)

所管外なので詳しくはわからないが、協働のあり方検討委員会というのがあり、そこで答申が出されている。その中に、市民協働支援センターのことについても触れられている。もう一方で、今、新庁舎を建設する委員会があり、その中でも市民協働支援センターについての議論がなされていた。新庁舎の委員会については、最終的な答申を見ていないのでわからないのだけれども、新庁舎の中にそういった機能を持つ部屋ができるのか、検討していたように記憶している。

(西田生涯学習部長)

既に仕事はしている。ボランティアだとか、市民協働なんかのコーディネーター役なんかを実際しているので、準備室でも仕事はしている。

(本川議長)

立ち上がって間もなく社会教育委員での視察に行った。

(佐野委員)

生涯学習の拠点というふうに市長は言っている。市民の憩いの場として図書館や公民館など、市民活動の場の充実に努めてまいると、施政方針で市長がおっしゃっている。ここで、生涯学習の拠点というものが、ここの中に組み込まれているのかどうかというのを、少し私は知りたかった。

(天野生涯学習課長)

今は手元にないので説明できないが、先ほど報告したとおり、協働のあり方検討委員会の答申というものが出されており、その中に市民協働支援センターの機能としてどういうものが必要だろうかといったようなことが書かれていたような気がするので、その辺を参考にさせていただければいいのかと思う。あと、新庁舎の検討委員会のほうも、つい先日答申が出たばかりなのでホームページ等で見られると思うので、その辺も少し確認していただけると参考になるのかなとは思っている。

(佐野委員)

わかった。

(西田生涯学習部長)

市民協働の準備室もホームページを開いている。

(本川議長)

東小金井のまちづくりでも答申を12月に出ささせていただいているのだが、その中にも複合施設としての生涯学習の拠点のようなことというのは組み込まれていたと思う。だから、いろいろなところから、市民協働センターも含まれていると思うのだけれども、いろいろな意味での生涯学習に対する拠点づくりのようなものは必要だろうということがあちこちから出ているのではないかと私は理解している。それがどこで集約されるのかどうかというのは少しわからないけれども、声が上がっているということは確かな事実だと認識している。

(西田生涯学習部長)

生涯学習の拠点というか、まだ確実なものではないが図書室のような言い方がされていたり、まだ確定的には答申の中で書かれてなかったと思う。複合施設でそのような、図書室のようなものも入れてほしいと。

(本川議長)

いろいろなものがあるのだけれども、やはりみんなが必要としているものを地域で少しずつ、役に立つような、誰もが使いやすいようなものにしていきたいというようなものがあり、市民協働支援センター準備室に限ってのことではないと理解していただくほうがいいかと私なりに思っている。よろしいか、佐野さん。

(佐野委員)

済まない、時間をとった。

## 2. 報告事項

### (2) 多摩郷土誌フェアについて

(本川議長)

多摩郷土誌フェアについて報告をお願いします。

(天野生涯学習課長)

第25回多摩郷土誌フェアについて報告する。こちらは多摩地区の教育委員会等が発行している郷土誌関係の出版物を一堂に集めて展示することによって、多くの人々に紹介し、希望者には有料頒布し普及を図るのが目的で、東京都市社会教育課長会文化財部会で主催しているものである。本年度については、平成25年1月18日金曜日から20日の日曜日までの3日間、場所は立川にあるパークアベニューの3階、オリオン書房ノルテ店で開催している。開催の結果については、資料の7の販売書籍一覧にあるとおり、全体では71冊、2万8,400円の売り上げがあったという状況である。24年度の年間の集計ができていないが、23年度については全体のおよそ1割がこの郷土誌フェアで売れている。以上である。

(本川議長)

ありがとう。(3)の野川駅伝について報告をお願いします。

### (3) 野川駅伝について

(天野生涯学習課長)

では、第9回野川駅伝について報告させていただく。こちらは平成25年1月20日に、場所としては都立武蔵野公園、野川公園の土手沿いであるが、そちらを中心に行っている。参加者数としては、資料の6のところに参加チーム数と参加者数の人数が記載されているが、チームとして127チーム、実際にはチームの中で補欠というか、登録はされているけれども走らなかった方というのもいて、それを含めると1,064名が参加したということである。こちら、ほぼ1週間前、成人の日に降った大雪の影響で一旦は開催自体が危ぶまれたところもあったけれども、中学生の野球チームの協力で、ボランティア的な活動で、雪かきをしていただいて開催できたというようなことである。補足として、閉会式の際にその旨を、教育長の挨拶だったかと思うけれども、そういったおかげで開催できたと報告したときに、自発的に参加者全員から拍手が上がったというのが非常に印象的だったので報告しておきたいと思う。以上である。

(本川議長)

ありがとう。自発的というのがすごくいい。小金井の子たちはいい子たちがいっぱいいる。それでは、(4)に移らせていただく。スポーツ祭東京2013について。

(4) スポーツ祭東京2013について

(尾崎国体推進担当課長)

それでは、スポーツ祭東京2013についてご報告する。まず初めに、スポーツ祭東京2013開催記念「ふれあいスポーツ教室」についてご報告する。お手元のチラシをご覧ください。開催日時であるが、2月2日土曜日、市の総合体育館で開催した。午前10時からのバスケットボールの教室から始まって、車いす競技以外は定員が全てオーバーしての開催となった。基本的な練習方法やオリンピック選手による模範泳法や模範演技など披露していただいた。また、車いす陸上のほうも30人近い参加があって、レース仕様の車いすやバスケットボール用の車いすなどの試乗会を行って、参加者の方も楽しく参加することができた。午後から、豪華講師陣によるスペシャルトークショーを開催し、普段聞けない選手村の話などが聞けた。こちらは当日の受付であるが、120名を超える参加者があった。その他、体育館の1階ロビーで国民体育大会の様子や「過去のオリンピックの栄光再び東京で」と題して写真展を開催している。こちらは、2月2日の土曜日から2月17日、日曜日まで開催している。2月2日の初日だけでも800人近い方にご覧いただき、多くの方の関心をいただいた。次に、国体のPRポスター大募集についてご報告する。まず、ポスター募集に当たっては、お手元にあるチラシの配布と市報等で募集を行った。2月8日金曜日をもって応募を締め切った。小中学生からは38点応募いただいた。2月16日に応募作品の審査を行った。なお、本日は審査結果を発表する予定である。応募作品については、2月25日の月曜日から2月28日木曜日の4日間であるが、駅前にある市民交流センターの地下1階の市民ギャラリーにおいて展示会を開催することになっている。

続いて、国体開催記念の黄金井うまいもん選手権について簡単にご紹介させていただく。チラシをご覧いただきたい。開催日は、2月24日日曜日、場所がJR武蔵小金井駅南口の駅前の交通広場と、市民交流センター前のコミュニティ広場で開催する。小金井の各地域を代表する15店舗が出店して、投票によって小金井のグルメチャンピオンを決定するものである。なお、上位入賞者3位までの出店者については本国体における売店ブースの出店権利が与えられるという形になっている。なお、当日は武蔵小金井駅南口の交通広場から前原坂上交差点までの区間を、午前9時から夕方の4時まで一般車両を通行止めして開催する。なお、会場では、国体のPR活動として、ゆりーとダンスの披露とか、あと国体の応援ブースなども出展してPR活動を行いたいと考えている。委員の皆様にはぜひ来ていただいて、ご覧いただきたく思うのでよろしく願います。以上である。

(本川議長)

ありがとう。何かご質問はあるか。

(佐野委員)

私も24日行きたいけれども、東京マラソンがあつて、ちょっとこちらには行けない。

(本川議長)

行かれる方はどうぞ奮って参加を。早く行かないとだめか。

(尾崎国体推進担当課長)

1店舗500食用意をするが、出店者によっては1,000食だが、早く売れるようだとお昼ぐらいに終わってしまう可能性もあるようだとは聞いている。

(本川議長)

では、いらっしゃる方はぜひ早めに。天気は大丈夫そうか。

(尾崎国体推進担当課長)

今のところは大丈夫そうで、ちょっと寒いようであるが、雨は大丈夫そうなので。多少の雨でも決行する予定である。

(本川議長)

では、(5)番のその他に移らせていただく。

(5) その他

(伊藤副議長)

皆さんにご報告しておく。三者合同の会議の検討委員会が2月4日にここの部屋で行われて、そのときに話し合われた事項について報告する。まず、検討委員会の中で、今のメンバーの中で四つの宿題が出ていて、生涯学習支援センターはなぜ必要なのかということについてももう一度考え直そうと。あくまでも提言を基本とし全く新規に考えるのではなく、これをベースにしてももう一度なぜ必要かというのを考えてみようということが一つ。それから同じく、支援センターの機能をどんなふうにするかということが二つ目。そして行政にどういうことを求めるか、これが三つ目。四つ目として、それら

三つにかかわるような要望事項等があればというようなことで前に宿題が出ていて、2月4日にその宿題を踏まえて検討委員会に臨んだ。機能とは何と何と何とか、あるいは行政に対してお願いしたいことは何と何とか、あまり細かく網羅するということは果たしてそれがほんとうにいいのかなという話になり、こういうことを言うてはいけないが、少しゆとりを持って、あるいはもう少し柔軟な発想ができるようなニュアンスでまとめてみたらどうかというような意向になった。一応、図書館の協議会の会長さんである松尾先生のほうでその話し合いの結果をまとめて、それぞれ出席されたメンバーの方々にはメールが流れているかと思う。三者合同会議だが、公運審のほうから、合同会議じゃなくて懇談会に戻して欲しいという提案があり、基本的に会議の名称がどうあれその中で三者が合意を得ればいいわけで、名称なんかこだわらないということで、5月の29日は会議ではなくて懇談会という形式をとることにした。つづいて、まとめについてだが、支援センターの必要性についてということは、小金井市の生涯学習施設は公民館、図書館、体育館などがあり、それぞれに独立して活動をしており、利用者や情報の提供が狭い範囲にとどまっている。多くの市民ニーズに応えるためにはどうしても市全域をカバーする情報のネットワーク化を図り、それらをコーディネートする拠点がぜひとも必要である。

二つ目として、第4次小金井市基本構想では、生涯学習について人間性豊かな学び合いの地域づくりを目指して、生涯学習活動に対する支援、情報提供やネットワークの整備を進め、市民協働により生涯学習を推進するとうたっているが、このことの実現には生涯学習を支援するセンター、いわゆる箱ものではないが、そういうセンターが必要であるということである。同様に、「小金井しあわせプラン」でも生涯学習の推進についてさまざまな活動団体の情報発信や市民等活動団体の交流の場づくり、団体間の連携支援などを通じて市民の自主的な活動を支援すると明記している。裏づけとしてこれをあえて載せたわけである。三番目として、生涯学習をはじめとするさまざまな情報が発信されているが、それらの中から信頼のおける情報を市民団体に提供することが必要だが、生涯学習支援センターではその役割を担うことができると言っておる。これが支援センターの必要性についてである。それから、センターの機能については四つ掲げている。まず一つ目は、さまざまに分散している学習情報、スポーツ情報、各種学習団体の情報、行政、教育機関の情報等を集約（情報の収集）し、整理して共有化を図り、必要とする市民、団体に提供する機能。二つ目として、市民、団体の多彩な学習活動を継続的に支援し、その成果を地域社会に還元する機能。それから三つ目、生涯学習を通じて家庭、地域、学校の連携を図る。市民団体間の出会いと交流を支援する機能。四つ目。市民団体と行政との協働によるまちづくりを、ここがみそであるが、市民団体と行政との協働によるまちづくりを、生涯学習の面から支援する機能。ただ単にまちづくりではなくて、生涯学習の面からそれを支援するような機能を持たせることである。

三つ目の、実現に向けて行政に何を求めるかということで、これも四つほど掲げている。一つが、市民の学習ニーズを的確に把握し、生涯学習全般にわたって企画、調整、



助言のできる職員を安定的に確保し、生涯学習を担う人材を育成する。それから二つ目、生涯学習を支援するセンター機能の実現を市民との協働で進める。三つ目、社会福祉協議会の市民協働支援センター準備室などの連携を図る。四つ目、同じくコミュニティ文化課との連携を図る。これが行政に求めることである。

その他の要望事項としては二つある。一つは、第4次小金井市基本構想・後期基本計画に生涯学習支援センター機能の整備について盛り込むと、盛り込むかどうかは向こうのあれであるから、盛り込んでいただきたいと思う。それから二つ目として、第2次生涯学習推進計画の延伸時には、基本計画との整合性を図ることということになっている。

次の検討委員会は3月11日に行われる。10時半からである。場所は、市役所の暫定庁舎の2階、第4会議室ということになっている。この間の検討委員会ではそのような話になった。以上である。

(本川議長)

皆さんのご協力もいただかないといけないので、どうかよろしく願います。その前に、今、伊藤副議長のほうからあったように、3月11日に検討会をもう1回やる。それから、代表者会でいろいろ話し合いをするという方向にするかということを検討したいが、その間、4月は本会議がある。

(伊藤副議長)

次年度の委員会の日程は。

(事務局)

事務局である。まだである。以前、会議の日程を調整させていただいたときに決まったとおりで会議室は予約している。基本的には3、6、9、12以外の議会のない月の第3水曜日、午前中で、8月と1月のみが1週間後ろにずれるというような形で会議室はとっていたかと思う。

(本川議長)

一応4月はある月ということ的前提に進めさせていただくので、3月、何か、いい方法があれば、これもまた相談に乗ってほしい。

(松田委員)

松田であるが、それに合わせて4月20日に総会があったか。

(事務局)

都市社連協の定期総会は4月20日を予定している。

(本川議長)

明日、都市社連協の理事会があるので伺ってくるけれども、明日の報告をどこかでしないとイケない。

(事務局)

明日、都市社連協の第1回の理事会があるので、ここは25年度第1回の4月の定例会で議長のほうから願います。

(本川議長)

はい、報告させていただく。何かほかにあるか。

(樹委員)

放課後子どもプラン運営委員会の報告をさせていただく。1月30日に、第四小学校の放課後子ども教室の現場に視察に行かせていただいた。この日は茶道のお教室をするということで、子どもさん20人に、これは応募者多数の場合は抽選で決められるようなのだが、2年生、3年生ぐらいの、結構低学年のメンバー中心のお茶会になっていた。半分ぐらいのお子さんが2度目、3度目の体験ということだった。多目的室にござを敷いて行っていた。そちらに伺うと、お茶の先生が掛け軸とお花を用意して、お湯もその場でわかしてほんとうの茶室のようにセッティングをされていた。そこに子供さんたちが10人ずつ交代で座ってお茶とお菓子をいただくということで、先生から季節のお菓子とお花の説明をいただき、季節感を味わいながら日本の伝統文化を学ぶという教室をしていた。子供たちも、私たちがたくさん見にいったせいかもしれないけれども、大変お行儀よく、また楽しんでやっている姿がとても印象的だった。ほかの学校で、放課後子ども教室を実際にやっている方たちも見に来られていたが、ぜひうちの学校でもやりたいとか、どうやったらこういうふうにできるのかという声も聞こえてきた。第四小学校としては、毎月ではないようであるが、お茶の会をやったり、またフラワーアレンジメントとかお料理とか造形遊びというのを水曜日にやりながら、火曜日と金曜日では校庭遊びをやっているということである。実行委員さんが5名で回っていて、大変ご苦労されているなという様子も伺えた。私は子供が第四小学校でお世話になっていたので、発足当時からのご苦労をかいま見ていたが、実行委員を長く続けていらっしゃる方もいて、そういう方がお子さんを卒業させた後も続けていければいいけれども、これからは実行委員をどれだけ集められるかというのが、この放課後子ども教室の質を決めていく一つのポイントになるのかなと思った。実行委員さんのお話を聞いていると、やはりいっぱいいっぱいというか、ほんとうに一生懸命やっというのがわかり、なかなか市の財政も厳しくて、実行委員会に対する予算というのがつかないという状況だが、何かの形で実行委員さんをフォローするような政策が出せればいいなと思いながら帰ってまいった。大変勉強になった、また、学校のPTAだけじゃなくて地域の力が放課後子ども教室を助けていかれるようになればいいと思って帰ってまいった。以上である。

(本川議長)

ありがとう。子供に日本の伝統文化をちゃんと継承させることは、教育として、ほんとうに大事なものである。何かほかにあるか。

(小林委員)

図書館協議会が、1月22日、午前9時15分から11時15分まで、こちらの801会議室で開かれたことをご報告させていただく。議題については、小金井市立図書館運営方針改訂版の案について職員からの説明、また委員からの質疑等で行った。また、報告については仮称小金井市貫井北町地域センター図書館貫井北分室開設準備の進捗

状況、また陳情が出ていて、市民が読書や学習できる場所の確保についての要望をいただいた。また、松尾会長のほうからは、小金井市生涯学習支援センター実現へ向けての検討委員会の第1回、第2回、第3回をまとめた資料もいただいた。図書館協議会は、次回は3月であるが、運営方針改訂版の案について、今年度で終わらせる予定ではいたが、なかなか内容が、各論の部分が多くて進みが思うようにはいかないという実状もあって、また次の3月で皆さんと職員の説明を聞きながら質疑をしていくということが予定されている。以上である。

(本川議長)

ほかに何かあるか。

(中村委員)

よろしいか。社会教育委員とは直接的には関係ないと思うが、先週の朝日新聞の記事である。実は、「ビブリオバトル」という用語はご存じか。図書館長はもちろんご存じだと思うが、私の一冊「書評合戦」ということで、5分間である人がお勧めの本を紹介し合って、最も読んでみたい本を観客が評価する、判断するということである。実際、投票によってチャンプ本というナンバーワンを決める書評ゲームらしいけれども、発表は5分間で、その後1人につき2、3分間の質疑応答を行うということで、発表人数は1ゲームで5人ほどが望ましいということで、こういうことが、東京が発端で全国でも行われているということで、実は、このビブリオバトルというのは図書館協議会もライブラリー・オブ・ザ・イヤー大賞を受賞したということで、最近は小学校から大学まで、教育現場でも試みられているということなのである。これ、私は実際に参加したことはないけれども、非常に本を読む習慣づけにもなるし、それをプレゼンテーションするという場にもなるし、読書を普及する非常にいいツールではないかなと思う。実際、小金井の図書館でこういうことが行われているかどうか、あるいは今後、学校教育、田尻先生に私はお聞きしたかったが、こういうことを学校教育の場で実践していく必要があるんじゃないかなと思うので、ちょっとご提案である。

もう1点。先ほど、野川駅伝についてご説明があったと思う。私、当日行ってまいって、ちょっと補足になると思うが説明させていただく。今年については132チームものチームが登録したということであるが、特筆すべきは毎年20チームずつ増えているらしい。それだけ認知されているということであるが、あともう一つ特筆すべきが、ほかの駅伝大会では低学年のところまでは対象にはなっていないそうなのであるが、この野川駅伝については、今回9回目であるが、小学生4年生以下の部門もあって、いわゆる駅伝の普及というか、低学年層への普及に非常に役立っている、すばらしい大会じゃないかということをごちらの黄金井倶楽部の下村理事長がお話しになっておられたので、皆さんにご報告したい。以上である。

(本川議長)

何か、ほかにあるか。では、なければ、時間であるので、第8回社会教育委員の会議を閉会とする。ありがとう。

以上